

1 学校教育目標	
<p>自ら学び 心豊かに たくましく</p> <p>基本方針「生徒一人ひとりを大切にする教育の実現」</p>	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<p>(1) 生徒一人ひとりに 基礎基本を身につけさせる。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの よさや可能性を見出し伸ばす。</p> <p>(3) 生徒一人ひとりの 命・健康を守る。</p>	<p>成果</p> <p>○生徒の「あいさつ」や「生命を大切にする心」が評価された。</p> <p>課題</p> <p>●学力向上が課題である。教員の授業力向上や授業改善を進めていくことが重要である。</p>

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	A	<p>○校長の学校経営方針を具現化しようと教職員それぞれが職責を果たしていた。また職員会議が効果的に機能し、組織運営が円滑に行われた。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	B	<p>○計画的に校内研修を行うことができた。教職員事故・不祥事防止についての研修を重点的に行った。</p> <p>●教員相互の授業参観などを計画的にすすめていく必要がある。</p>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	B	<p>○新型コロナウイルス感染防止対策を全教員が確実に行うことができた。</p> <p>●全校で集合する形での避難訓練を行うことができなかった。新しい形で効果的な方法を検討していく。</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	B	<p>○ICTの活用を促進した。校外への個人情報持ち出し簿の管理が徹底された。</p> <p>●移動用タブレットの管理や生徒の使用方法の指導が統一できていなかった。</p>
	⑤地域との連携開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	B	<p>○地域へ学校だよりを生徒ボランティアを活用し定期的に配布した。</p> <p>○保護者への連絡メール配信などを適宜行うことができた。</p> <p>●行事が中止となり、例年行っている学校公開や連携について工夫が必要であった。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	<p>○作品交流やあいさつ運動など、これまでに行った活動を継続して行うことができた。</p> <p>●主幹教諭や教務、三部会部長の会議が中心だった。幼保小中それぞれ多くの職員が参加できる工夫が必要がある。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	○各教職員が学校教育目標の実現に向けて教育活動を推進した。時数を調整し各教科ともほぼ例年通りの進捗状況となった。保護者の評価も昨年度に比べて改善が見られる。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	○定期的に教科会を開き、各教科の課題解決や新学習指導要領実施に向け準備を進めることができた。 ●外部人材の活用やわかりやすい授業を目指し、さらに工夫を重ねる必要がある。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	○年度当初に研修を行い、学年道徳・ローテーション道徳などを実施し、生徒が深く考えられる授業を实践した。 ●地域・家庭との連携をより一層推進する。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	B	○学年ごとに工夫を凝らし、生徒が活躍できる行事を計画的に行うことができた。 ●感染防止策を徹底し、安全に配慮した話し合い活動に取り組む機会を増やす。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	○計画が変更となる中、学年ごとに工夫をし、充実した内容となった。 ●生徒の発表・表現に課題があり、その課題解決に向けた工夫を行う。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	○毎週の生徒指導部会を機能させ、迅速な対応や先手を打つ生徒指導を進めた。 ●教育相談的な指導を必要とする生徒に対する連携を今後も工夫していく。
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	B	○高校教諭による出前授業や3年間を見通した指導を行うことができた。 ●職場体験など中止となった行事の代替案を検討していく。
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	○生徒同士の交流の機会を計画的に持つことができた。 ○教員は研修や授業での関わりを通して生徒理解を深めることができた。
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	○読書活動推進校として、計画に基づき学校司書と連携しながら、安全で効果的な読書活動を推進することができた。 ○代表生徒がビブリオバトルに参加した。
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	○積極的に活用している授業が増えた。 ●ICT機器の管理を徹底する必要がある。 ●教員の知識・技能に差があり、研修を進め、充実した指導につなげる必要がある。
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	○各学年、人権作文や人権標語などを中心に人権感覚の育成を図った。 ●職員研修を充実させ、さらに効果的な実践研究を進める。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
特色ある学校づくり	III あいさつ運動	各委員会を中心にあいさつ運動を行い、生徒同士やPTAの方々との交流を通して、学校全体の雰囲気醸成している。	B	○生徒中心の活発な活動ができた。 ○部活動ごとに各小学校へ出向きユニフォームであいさつ運動を行い、連携を図ることができた。 ●PTAとの連携はできなかった。 ●効果を検証し、改善していく。
	ボランティア活動	緑化・清掃・配達ボランティアなど、奉仕活動に力を入れている。	B	○校務分掌化をし、計画的に行うことができた。 ○生徒が意欲的に活動できた。 ●校外のボランティア活動の紹介や啓発などを引き続き行っていく。
	両中スマホルールの制定と実践	独自のスマホルールを設定し、呼びかけを行うとともに、校区の小学校とも連携して実施している。	B	○小学校と連携し継続・連続した内容のルールであるため、1年生でも違和感がなく意識し、実施できており、全学年を通じて両新田中の代表的な規則として認識されている。 ●さらなる周知と効果の検証を進める。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

ほとんどの項目がB「おおむね達成できている」以上の結果である。全教職員が学校教育目標・基本方針・重点目標を意識し、職務遂行した成果である。

生徒アンケートからは、15項目中10項目で、8割以上の成果が見られた。昨年度と比べAの割合がすべての項目で増えている。しかし、「発表を求められる場面ではすすんで自分の考えを述べた」・「ボランティアなど何事にもすすんで取り組んだ」・「日頃のあいさつ、ゴミ拾いなど地域の中でも力を示した」の項目で3割前後の生徒が達成できていないと答えている。主体性や自己肯定感のさらなる育成が重要である。

保護者アンケートでは、「子どもに学力をつけている」・「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」で3～4割の保護者が当てはまらないとしている。学力向上や授業改善をさらに進めることが重要である。

学校運営協議会委員の方々からは、「健やかに育っている」「それぞれのクラスの授業が穏やかに行われている」との評価をいただいた。また、保護者・地域の方々と部活動の指導や支援など教職員の負担を分け合うことや、生徒の長所を活かす指導についてのご意見をいただいた。

今回の評価を次年度の教育活動につなげていく。

6 次年度の改善策

- ①幼保小中一貫教育をさらに推進しながら、校区の課題である「基礎学力の向上」と「自己肯定感の育成」を、ICT環境を整備し効果的な方法を検討していく。
- ②草加市学力・学習状況調査のフォローアップシート・コバトンのびのびシート等を活用し、一人ひとりの資質・能力の育成を図る。そのために教職員で草加市学力・学習状況調査のフォローアップシート・コバトンのびのびシート等の研修を行うなどして実効性を高めていく。
- ③新しい生活様式の中で生徒主体の活動を増やし、自主性や積極性、表現力を育成する。そのために教職員の研修を充実させ、知識・技能の向上を図る。